北・高梨字田茂木3-3
公民館内
秋田柵跡調査事務所

秋田県文化財調査報告書第45集

能代・山本地区広域農道関係遺跡発掘調査報告書

(蟻の台遺跡・長峯台遺跡)

1977. 3

秋田県教育委員会

秋田県埋蔵文化財センター

序

「広域営農団地農道整備事業、能代・山本地区工事」は山本郡八竜町から能代市を通り峰浜村に至る全長30,568メートルに及ぶ農道建設事業で、昭和48年度から工事が始められています。

昭和49年度から農道予定路線上の4遺跡の発掘調査を実施してきましたが、本年度は引続き能代市蟻の台遺跡、山本町長峰台遺跡の2ヶ所を調査しました。農道整備工事に係る緊急調査はこれで終了することになりますが、遺跡の保護と周辺遺跡の性格解明のため本報告書が活用されれば幸いであります。

最後に調査を担当されました各調査員並びにご協力いただきました能代市教育委員会、山本町教育委員会、山本農林事務所土地改良課の方々に深甚なる謝意を表する次第であります。

昭和52年3月

秋田県教育委員会

教育長　畠　山　芳　郎

目　　次

序

1. 調査に至るまでの経過 …… 1

2. 調　査　の　構　成 …… 1

3. 蟻　の　台　遺　跡 …… 1

(1) 位　置　と　現　状 …… 1

(2) 調査の方法とその過程 …… 1

(3) 遺　構　と　遺　物 …… 3

遺　　構 …… 3

遺　　物 …… 3

土器・石器 …… 3

(4) ま　　と　　め …… 3

4. 長　峰　台　遺　跡 …… 8

挿　図　1 …… 2

〃　2 …… 4

〃　3 …… 5

〃　4 …… 5

〃　5 …… 9

図　版　1 …… 6

〃　2 …… 7

〃　3 …… 8

能代・山本地区広域農道関係遺跡発掘調査報告書

1. 調査に至るまでの経過

昭和48年に秋田県農政部農地整備課によって計画された能代、山本地区広域農道建設は、昭和51年度に至り、能代市中沢地区から山本町にかけて工区の設定がなされた。

そのため、路線上とそれに近接する能代市蟻の台遺跡と，山本町長峯台遺跡の事前調査を、秋田県教育委員会の依頼により下記によって実施したものである。

2. 調 査 の 構 成

期　　日　　昭和51年8月1日～8日

遺跡所在地

○　能代市中沢字蟻の台1番の内

○　山本郡山本町外岡字長峯台38－5

調査主体　　秋田県教育委員会

調査協力団体　　能代市教育委員会、山本郡山本町教育委員会、山本農林事務所土地改良課

調査員　　伊藤種秋、岩見誠夫、永瀬福男

調査事務担当　　秋田県教育庁文化課

3. 蟻 の 台 遺 跡

調査期間　8月1日～4日

（挿図 1、2、3、4　　図版 1、2）

(1) 位置と現状

遺跡は山本郡山本町の森岳駅から直線距離にして北方約7キロメートル、山本町割道部落と能代市中沢の犬伏部落のほぼ中間に位置する。

能代市の北方から山本町，八竜町にかけては、出羽山地へと連らなる標高30～40メートルの平坦地形が広がり、その縁辺には数多くの遺跡が存在する。

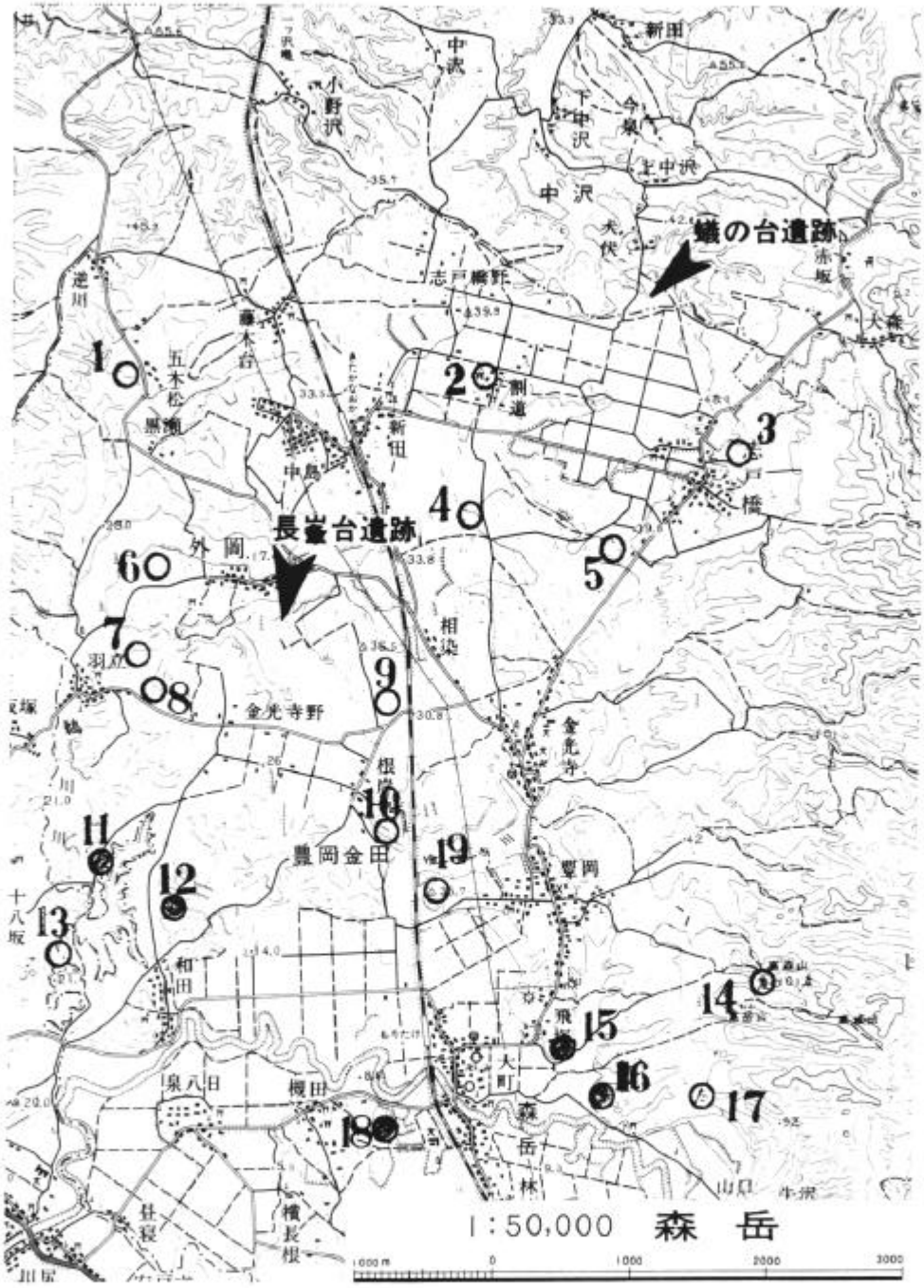
この平坦地形のほぼ中央に位置する調査地区は、標高37～38メートルで10年ほど前に開田され、現在は、水田と休耕田になっている。調査地の北約70メートルの所にある養鯉の行なわれている堤は、中沢部落を経て新田部落で米代川の幸野部へ通じる中沢と呼ばれる沢の最奥の位置をしめている。

(2) 調査の方法とその過程

遺跡として標記されている一帯は、広い水田と休耕田である。この開田は10年ほど前に行なわれており、その工事の際に石器類が出土して確認された遺跡である。

地元の人々の話によると、大規模農道予定線上で旧地形の残っているのは、三叉路状に農道が合する地点の3アールばかりの草地のみとのことであった。それで試掘とボーリング調査を

挿図 1　遺跡周辺地形図



縄文土器散布地（1．五本松遺跡　2．割道遺跡　3．志戸橋遺跡　4．大下遺跡
5．高田遺跡　7．館越遺跡　11．渡鳥遺跡　12．和田遺跡
15．飛塚台遺跡　16．関の台遺跡　18．鳥矢場遺跡）

弥生土器散布地（13．放竜遺跡）

土師器・須恵器散布地（6．外岡遺跡　8．保竜遺跡　9．乗越遺跡　10．根岸遺跡）

館　　（14．ケゴ館　17．館の平　19．田倉館）

もとに、草地と農道の一部にかけてグリットを設定し、発掘調査を行なった。

(3) 遺構と遺物

発掘調査地の土層位は、最上位に0.2～0.4メートルのブルドーザーで押土されたと考えられる粘土ブロック混入黒色土があり、その下位に厚さ約0.4メートルの黒色土、そして粘土質火山灰土の地山の経過をたどる。発掘調査地と農道をへだてた南側の休耕田は、過半が地山の黄褐色土をのぞかせており、北側の水田は一段低く、ボーリング調査によると0.2～0.3メートルの厚さを持つ黒色土の堆積があり地山へと移行している。すなわち調査地はかつては北側に存在する沢に向ってゆるやかな傾斜をなしていたと考えられた。ブルドーザーによる押土と地山の間の黒色土層の攪乱はたかった。

遺構（挿図3、図版2）

B3、4で検出された溝状遺構のみである。

全長2.75メートル、最大幅0.50メートル、深さ0.40メートルの細長く底の平らなもので、地山を掘り込んで作っており、埋土は黒色土であった。北東端が袋状に地山に入りこんでおるもので、出土遺物は無くその性格は不明である。

遺物（挿図4の(1)　図版2の(2)）

土器

A1の黒色土層からの出土である。細長い小破片で、表面に撚糸文があり、器壁内に繊維を含有する茶褐色のものである。

石器（挿図4の(2)　図版2の(1)）

D1の黒色土最下部からの出土である。

灰白色硬質頁岩製のトランシェ様石器（注1）と考えられるもので、破損品である。

(4) ま と め

本遺跡から出土した遺物は、縄文土器小破片1とトランシェ様石器の2点のみである。

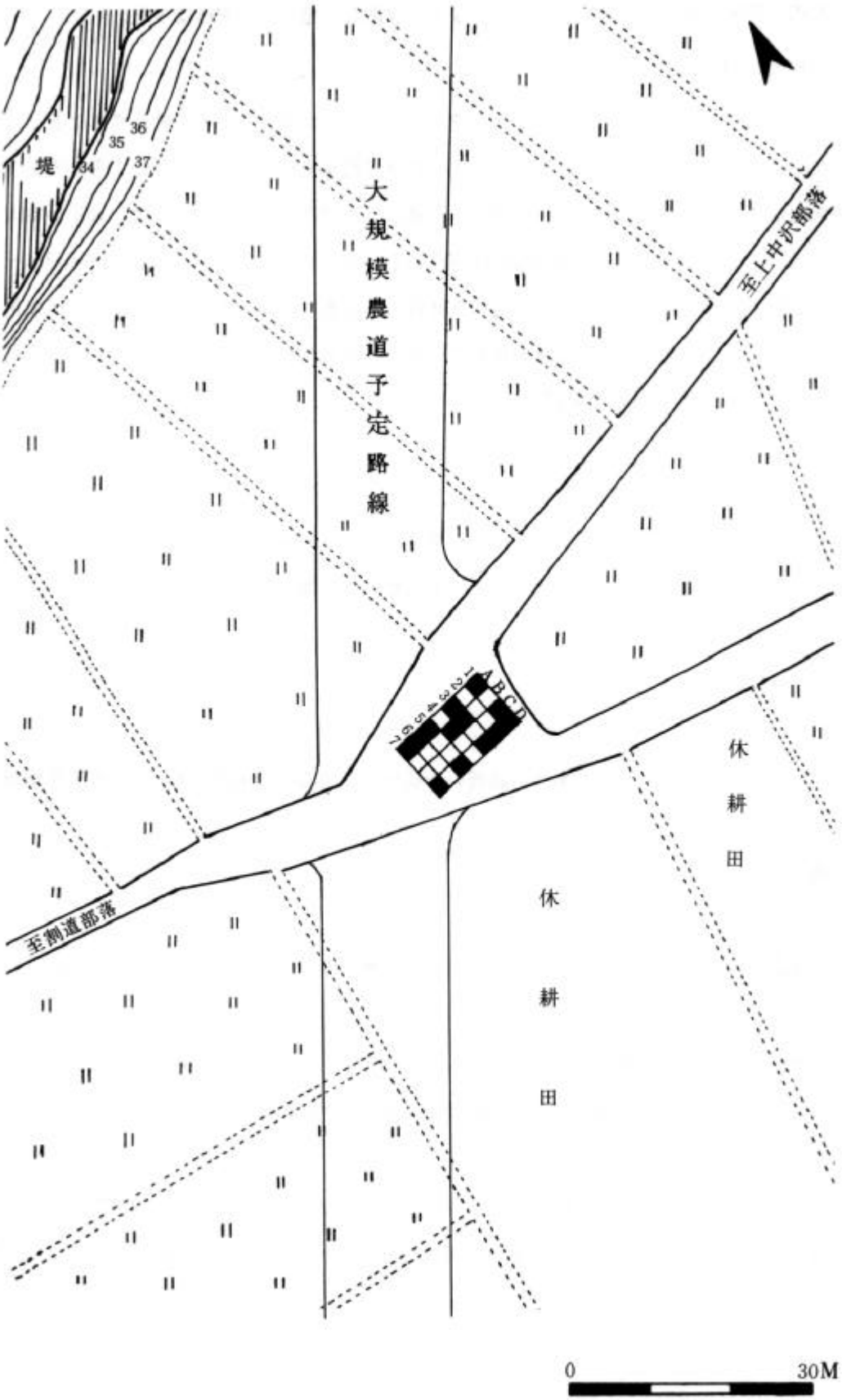
縄文土器片は撚糸文が施文され、器壁に繊組を含有することから縄文前期のものと考えられる。

トランシェ様石器（注2）は、縄文早期の貝殻文土器に伴い、円筒文化圏の範囲に多く発見されているもので、その機能は刃部の使用痕などから獣肉や毛皮を切る利器と考えられている。

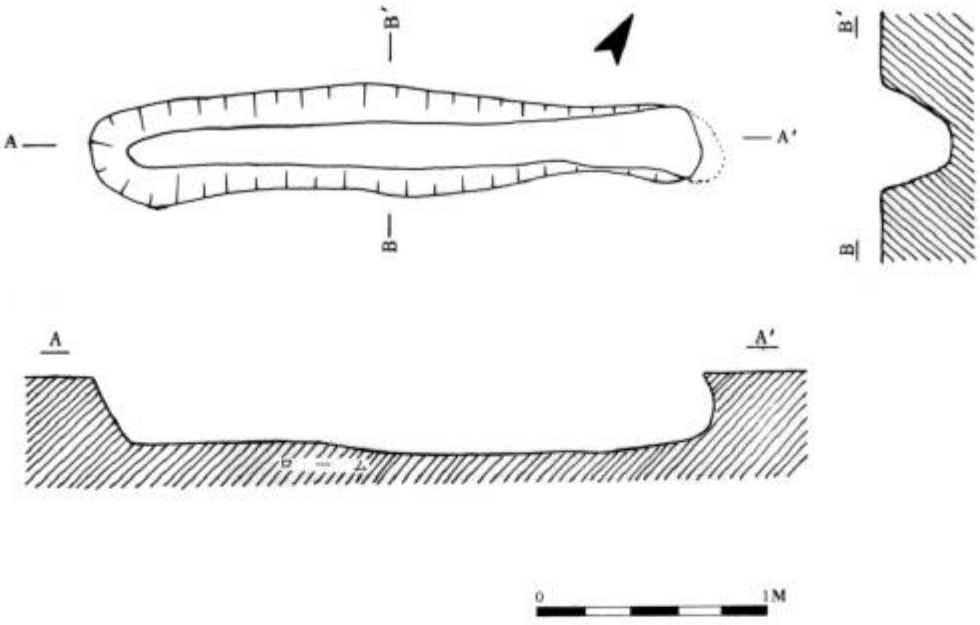
以上のことから本遺跡は，縄文早期末から前期の時期にかけての遺跡と考えたい。

注1　富樫泰時「トランシェ様石器」東北考古学の諸問題
東北考古学会編，東出版寧楽社刊　1976.10

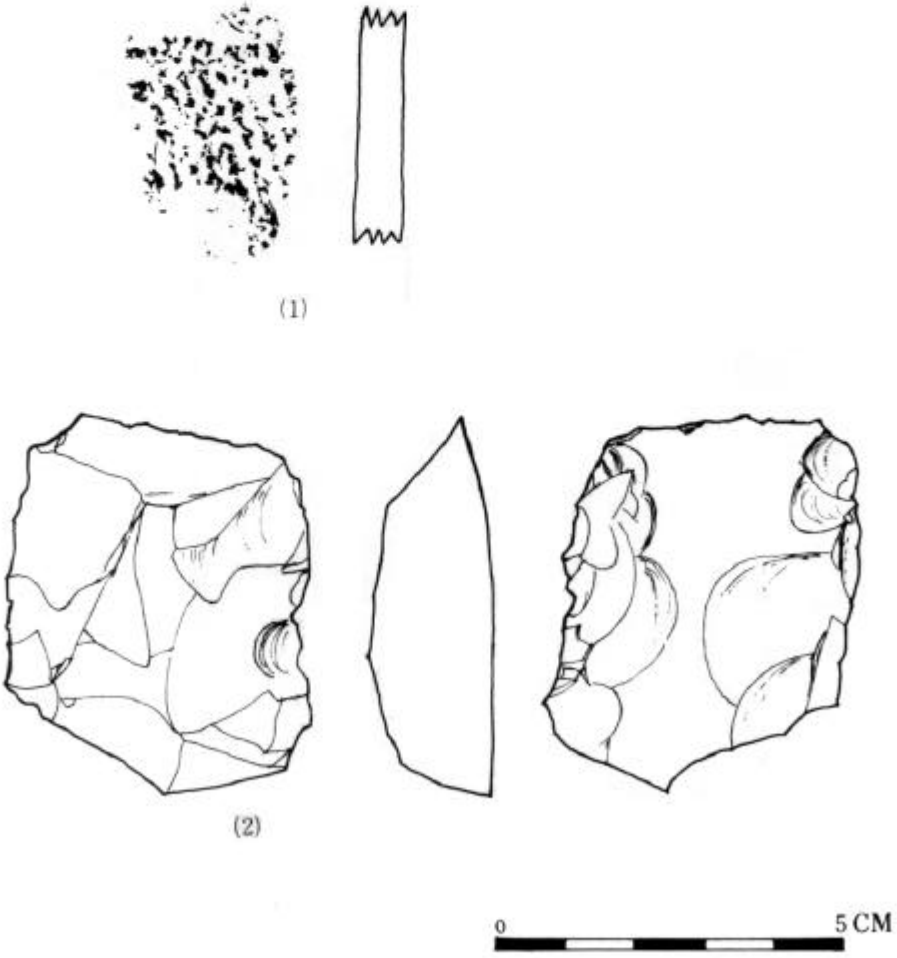
注2　注1に同じ



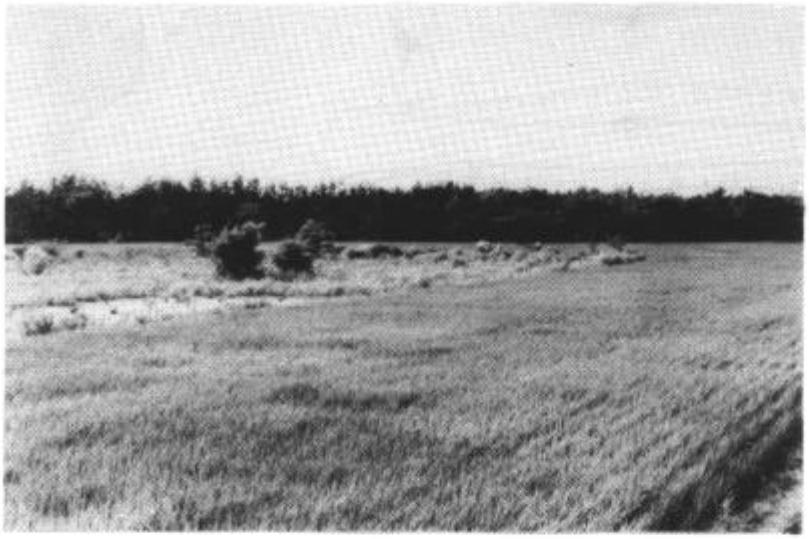
挿図 2　蟻の台遺跡全体図



挿図 3　溝　状　遺　構

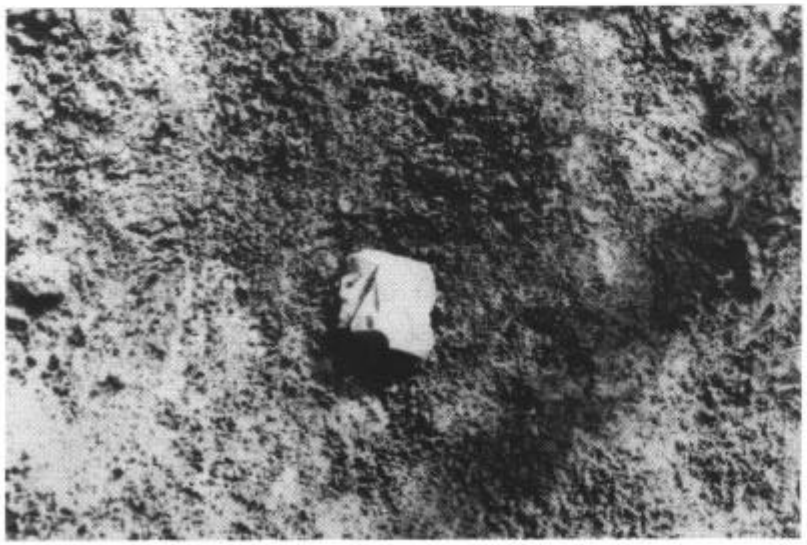


挿図 4　出 土 土 器、石 器



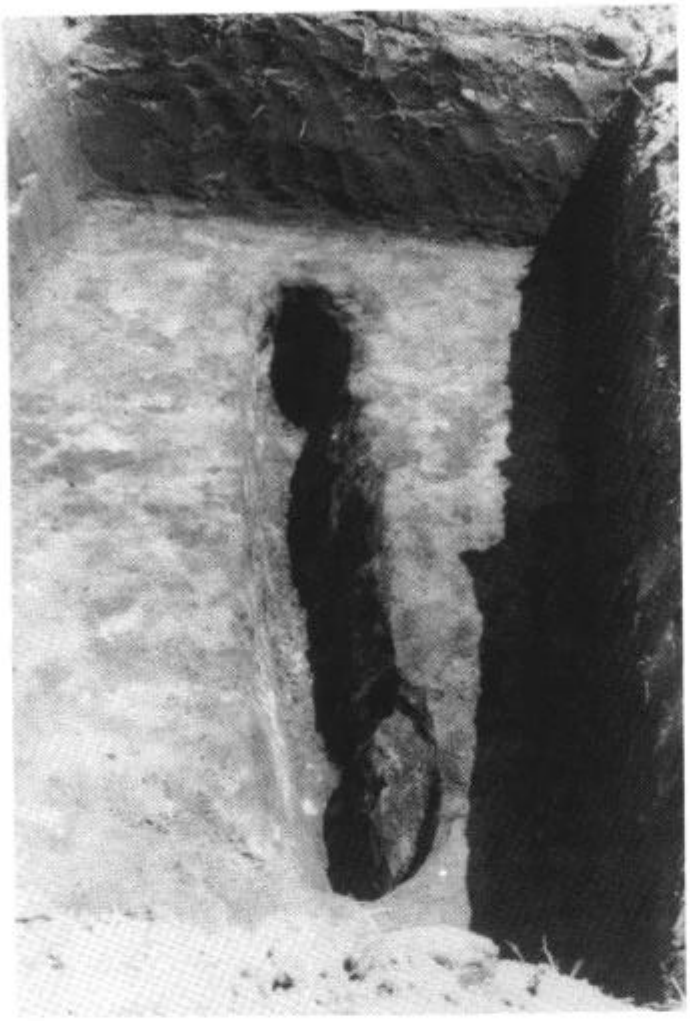
蟻の台遺跡遠景

発掘調査風景

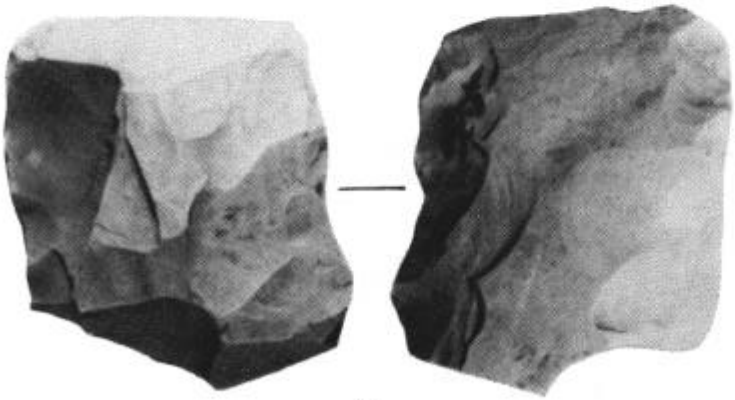


石器出土状況

図版 1



溝　状　遺　構



(1)

(2)

図版　2

4. 長峯台遺跡

調査期間　8月5日～8日
（挿図 1、5、　　図版 3）

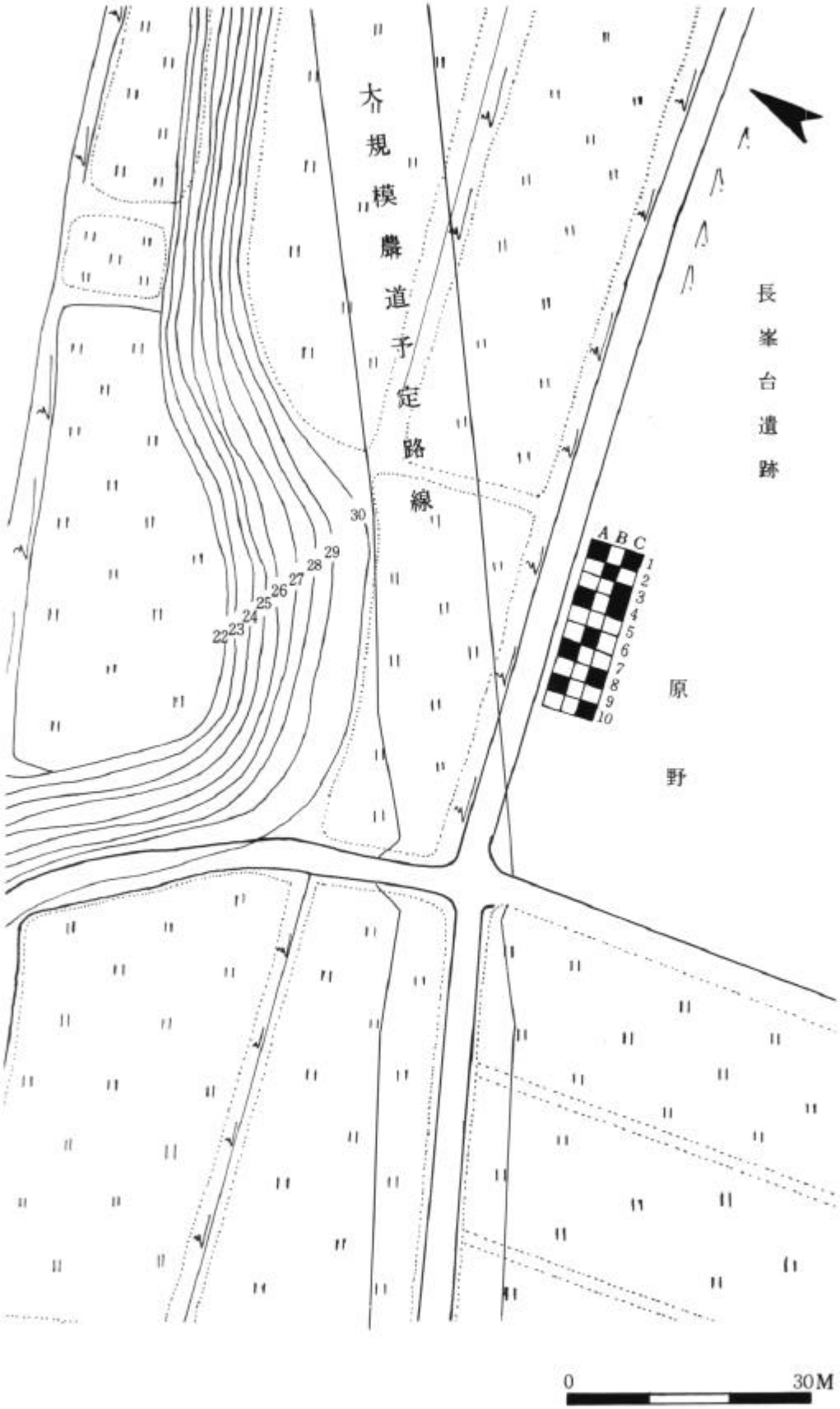
長峯台遺跡は山本郡山本町外岡部落の南東約400メートルの所に位置する遺跡で、林、水田原野から成る。この地もまた蟻の台遺跡と同様、能代市から山本町、八竜町にかけて広く存在する標高30～40メートルの台地上にある。外岡部落との間には小河川、志戸橋川が流れ、遺跡は縄文中期と考えられている。

この遺跡の一部が数年前に開田された際に土器片、石器が出土しており、この水田地帯が51年度に計画された大規模農道の工区に当たるため、遺跡の一隅である農道予定線に近接する原野にグリットを設定して、発掘調査を行ったものである。しかし、遺構ならびに遺物は発見できなかった。

長峯台遺跡遠景

発掘調査風景

図版 3



挿図 5　長峯台遺跡全体図